

# 浄心寺だより

発行  
浄心寺門信徒会

郵便番号714-0081  
笠岡市笠岡2065  
電話(0865)62-2623  
FAX(0865)62-2595  
振替01260-9-13760  
<http://joshinji.suki-ari.net/>



## 「み法を味わって」(九)

み教えを聞く

他人の立場に立って考えることの大切さは誰でもわかっていきます。誰でもそうしようと思っ  
ています。ほとんどの人は自分はそうしている  
と思っています。そして、それなのに今の世の  
人は自分勝手な人が多いと憂いなきまます。

しかし、その考え、世の中を評論家席から眺  
め、自分は別だと思っっていることが自分勝手と  
いうものなのです。煩惱の暗闇の中では自分  
は見えないのです。

阿弥陀如来の光に照らされて初めて気がつか  
されるのでありましょう。親鸞聖人の教えを聞  
くと、そのお人柄が温かく私の心に伝わり、自  
分を涙ながらに振り返らせてくださるのは、評  
論家として批判されるのでなく、共に悲しみ、  
共に喜び、私の心をわかってくださるお方だか  
らです。報恩講を縁にその教えを聞きましよう。

鷹谷俊昭著 『月ごとのことば』 転載

親鸞聖人の  
ご遺徳を  
しのんで

## 報恩講

十二月五日(土) 午後一時半より

ご法話 福山市内海町・善正寺 那須英信師

※正午より聚園和室にてお斎(とき)を呈上させていただきます。  
遠慮は無用です。どうぞお席にお着きください。

## 法物 虫干し法座

当山の法宝物虫干し法座が七月十七日十三時半より勤まりました。台風が倉敷を通過直後で警報中、風雨の強い中でしたが、無事に勤めることができました。



まず『讚仏偈』をお勤めの後、副住職が当寺にまつわる「中国真宗念仏行者御形見名号略縁起」を拝読。次に福山市神辺町の光行寺、苅屋光影師のご法話を頂きました。親鸞聖人の『教行信証』には三哉(さんさい)という語があります。これは物事には三つの側面、「慶ばしき哉(かな)」、「悲しき哉」、「

「誠なる哉」があることを示しています。例えば結婚式は喜びに満ちていますが、嫁に出す親は悲しい気持ちの場合があります。これら二つの他に、何ものにも左右されない誠の真実として、「ご縁」があります。お寺参りのうえで「縁」という、ほとけの教えとの出会いです。この真実を抛り所として、喜んだり悲しんだりして、充実した人生を送りたいものです。

また同じく親鸞聖人の『正信偈』には「一生造悪値(遇)弘誓」ということばがあります。私たちは生涯、「悪」をなして過ごしますが、そんな私たちこそ仏さまの大きな救いの願いの中にあるんだ、というおことばです。「悪」というのは親が子に対して「悪い子じゃのう」というものに近く、決して放つてはおけないという仏さまの願いがかげられた悪のことです。

金子大栄師は「救われるとは、本当の居場所が与えられることである」といわれました。わたしたちはそれぞれに、どうにもならないことも抱えながら生きている身の上であります。お浄土という居場所気付かせていただいて、どうにもならないままに救われてゆき、「今を確かに生きる身」となりたいものであります。



## 秋季彼岸会・永代経法要

九月二十六日、午後一時半より秋季彼岸会および門信徒総追悼永代経法要が勤まりました。

一同で阿弥陀経をお勤めの後、ご法話を拝聴。ご講師は井原市芳井町、光栄寺の佐藤知水先生で、「幸せ」とは何か、浄土真宗の考え方をお話くださいました。

「幸福」は明治に外来語の翻訳語として作られたことばだそうですが、この造語により、かえって私たちが幸せを追求することになり、「不幸」ということばも生み出してしまいました。もともと「しあわせ」とは「仕合わせ」と書き、幸も不幸もなく、すべては仕合わせられたもの、縁が整えられたもの、

の、と考えられていました。

「福は内、鬼は外」の福はどこから来るのでしょうか、鬼はどこへ向かうのでしょうか？福とは私たちにあって望ましいもの、都合のいいものであり、鬼とは望ましくないもの、都合の悪いものを表わします。鬼を他になすりつけ、福を奪い合って生きていくのが私たちです。そこには、幸せを求めてこちらから手を伸ばしていく私たちの姿があります。しかし、幸せには際限がありません。今、幸せなのに、不幸にならないとそれに気付けないこともあります。

そのような私たちの姿は、今を見ないで、先ばかり見て生きる姿ともいえるでしょう。本当に大事なものは、今、ここです。

阿弥陀如来は福も鬼も入り混じった中で懸命に生きる私たちを、残らず抱きとつてくださる方です。そのままのいいからしつかり生きなさい、あとのことは私に任せなさいと、常にそばにあられる方です。それは多くの亡くなられた方々の姿でもありましょう。年齢にかかわらず、誰しも明日はどうなるかわからない身であります。今、ここを生きていることに感謝し、今、ここをしつかりと生き抜きたいものであります。

# サマースクール

## 開催

七月二十二日、二十三日、サマースクールが開催されました。小学生七十三名が参加、二名の若手僧侶による指導のもと、お寺での一泊二日を体験しました。

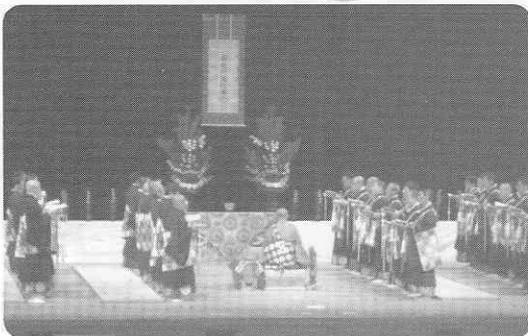
開会式で仏前でのマナーや作法を習った後、班に分かれてTシャツづくりやゲームをし、ほとけさまのお話も聞きました。入浴は恒例の臨時露天風呂(?)と、番町の



老人福祉センターの風呂をお借りしました。天候が心配されましたが、夜にはキャンプファイヤーと

## 第二十回備後教区

# 「平和の集い」



十月七日(水) 浄土真宗本願寺派備後教区主催の第二十回備後教区「平和の集い」が福山市福山市一丁目デンローズ大ホールに協賛寺院

二百二十八ヶ寺から約八百人の住職、総代、門信徒等関係者が参加して開催されました。

開会式で正信念仏偈のお勤めの後、野川大卓備後教区教務所長が開会挨拶、昭和二十年八月八日の福山大空襲の「福山大空襲の記録」に記載されている実話を原作として終戦七十周年を迎えた今平和を考える上での問題提起として朗読劇「尊い犠牲ってなんだろう」を拝聴。又、元自衛官で真宗大谷派門信徒の泥憲和氏が「憲法九条の平和力」と題しての講演がありました。参加者は住職と総代の内海義郎、長安圭一、藤井祐三の四氏でした。

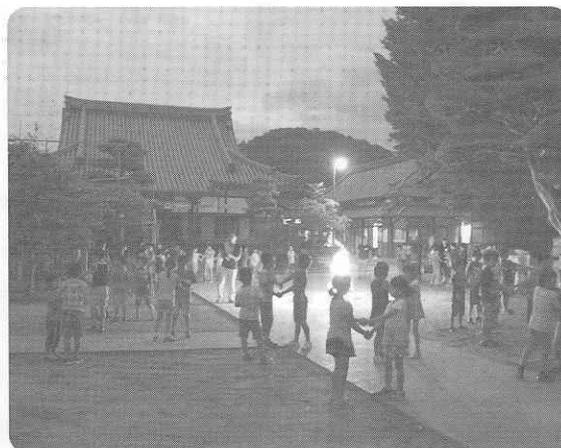
## 平成28年年回表

回忌	往生年
1 周忌	平成27年
3 回忌	平成26年
7 回忌	平成22年
13 回忌	平成16年
17 回忌	平成12年
25 回忌	平成 4年
33 回忌	昭和59年
50 回忌	昭和42年

該当のお方には別途お知らせいたしますが、遺漏することもありますので、ご留意・ご確認の上、ご法要の日時をご相談ください。



花火、希望者はさらに室内で暗夜行路をしました。本堂と庫裡に分かれ就寝。翌日にはウォークラリーで街に繰り出しました。手作りうちわも作成しました。閉会式の後には、今年も藤井俊治さん提供



のスイカを頂いて解散しました。昨年に続いて多くの参加者があり、子供たちにとっては楽しく貴重な経験をすることができました。また仏婦の方々には食事の調理、清掃等でご協力いただきました。



# 仏婦コーナー アソカの花

## 仏教讃歌のつどい

10/1

備後教堂にて教区内の仏教讃歌を楽しんでいる仏婦の皆さんが集いました。

講師はたくさんのお和讃にご自身で作曲され、シンガーソングライターとして活躍されている平田聖子先生のご指導でした。ご和讃のお味わいを挟んで楽しく歌いました。当寺からはコーラスグループ「コール清風」二十名が参加しました。

平成二十七年 度

## 仏婦総会

六月二十一日(日)会員五十四名の参加にて開催されました。二十六年 度行事・予算報告、二十七 年度行事・予算等審議さ れ満場一致で承認されま した。

今年度は役員改選です が常任委員と地区役員九 班・十三班を除き継続と なりました。

教区常任委員

伊藤 朋子

地区役員

九班

石井由美子

十三班

長安八重子

(敬称略)



## 清掃奉仕

9/13

早朝7時30分～9時。お彼岸を間近にひかえて、境内の内外の大掃除に汗を流しました。



## 第十五回 世界仏婦大会に参加

カナダ、カルガリーにて  
(5月30日、31日の二日間)

カナダ、北米、南米、ハワイ各開教区および日本から(一、〇〇〇名参加)の総計一、七〇〇人の仏婦が集いました。当寺より仏婦会長・藤井悦子さんと坊守の二名が参加いたしました。

ご門主ご臨席のもと、三十日は日本語講演としてシンガーソングライターのやなせななさん(本願寺派僧侶)が自ら作詞作曲した歌を交えながらのご法話。翌三十一日は英語記念講演としてパトリシア・ワスキー開教使がご法話。また各会場に分かれてのワークショップでは各国代表による体験発表。いずれも阿弥陀さまのみ教えをとともに伝えていこうという共通の思いが会場にあふれ、参加者の一体感を生んだ二日間でした。

## ダイナバザー予告

平成28年4月23日(土) 浄心寺にて

みなさまお誘い合わせのうえ  
お越し下さいませ。

## 報恩講 お斎のご案内

12月5日(土)正午  
聚園・和室にて

お斎とは仏事などの時の食事のことです。仏教婦人会の皆さんが丹精込めて調理して下さいます。遠慮は無用です。お誘い合わせられてお席にお着きください。



### サマースクールに協賛

7/22~23

今年は七十三人もの大勢の仏の子が集いました。暑さにもめげず食欲旺盛でご飯の釜も底を尽き、ハラハラするほどでした。境内に子どもたちの黄色い声が響きわたる楽しい二日間でした。

### 福祉施設に慰問

7/7

文化箏同好会の皆さんと笠岡ドルフィンへお邪魔しました。ロシア民謡やなつかしの歌で楽しいひとときをすごしました。



### やさしい仏教講座

平成28年の予定

副住職による「やさしい仏教講座」の来年の予定です。『高校生からの仏教入門』（本願寺出版社）に沿って進めています。現在は「親鸞さまの生涯」です。どうぞお誘い合わせのうえ、ご参加ください。

- ◎第37回 2月9日(火)
- ◎第38回 4月12日(火)
- ◎第39回 6月14日(火)
- ◎第40回 8月16日(火)
- ◎第41回 10月6日(木)
- ◎第42回 12月8日(木)

毎回午後7時30分より9時まで  
解説◆津田明雅副住職  
(第38回より新任職)

会場◆浄心寺礼拝堂(イス席)  
聴講料◆不要

### 『御同朋の社会をめざす運動』

推進協議会が開催される

今年度の備中里組主催の『御同朋の社会をめざす運動』（実践運動）協議会が去る六月二十五日に浄心寺を会場に開かれました。この協議会は本山が進める同朋運動に則って開かれる「話し合い法座」です。今年はいま、話題になっている『終活を考える』をテーマに備中里組内のお寺から総代さん、門徒推進委員さん、仏僧役員さん、住職、坊主などそのお寺を代表する人たちが四十一名が参加しました。はじめに蓮乗寺(笠岡市生江浜)住職、本願寺派布教使の田井智彦師が問題提起をしその後、四班に分かれて話し合いをしました。切実な社会問題でしたので、各班とも熱心な話し合いがなされました。

### 第25回 新春のつどい

平成28年1月18日(月)  
正午より 聚園和室にて

門信徒の皆さんが一堂に会して新年を迎えられたことを寿ぎ、共に親睦を深めるつどいです。カラオケ、舞踊などのかくし芸、文化箏の弾き初めなどで楽しいひとときをお過ごしください。(会費2千円)



### 除夜のつどい

◎十二月三十一日  
◎午後十一時四十分より  
◎当寺・鐘楼前にて

最後にまとめとして田井師は、「最近、いわゆる家族葬が増えてきていますが、はたしてそれでよいのでしょうか。葬儀は近親者の「死」を通して、遺されたものが故人を偲び、改めて生前の厚情に感謝の気持ちを表す場なのです。また、慌ただしい日常生活の中で真摯に振り返ることのできなかつた無常の道理を知らされる場でもあります。」と結ばれました。この協議会に当寺から内海義郎さんをはじめ十五名の方々が参加してくださいました。この協議会に先立ち午前中に備中里組の各お寺の総代さんの連携を強固にしようとして連絡協議会(内海義郎会長)が開かれました。そして今年度の活動方針などが審議されました。



# 門信徒の広場

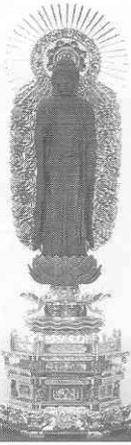
## 継職記念事業が 順調に進む

第十九世住職継職にあたって記念事業へのご懇志をお願い申し上げましたが、おかげさまで多数の方がご芳志をご進納くださいました。まだご進納でないお方は何とぞよろしくお願い申し上げます。

## ご本尊がご復座

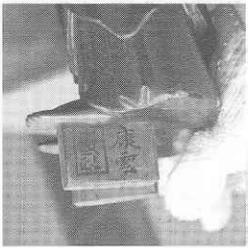
継職事業の一環としてご本尊・阿弥陀如来立像の修復がすすめられていましたが、作業が完了し、ご復座されました。

このたびの作業でお像の右足駄の外側に「康雲□政」の墨書銘



修復なった  
阿弥陀像

「康雲□政」の  
墨書が見られる



があり、このご本尊を制作したのは江戸時代の仏師、渡辺康雲であることが判明しました。

ご本尊そのものは一部の補修とほこりの除去に留めましたが、光背、蓮台、台座は金箔押しと着色を施し見事に修復されました。

また、阿弥陀堂に安置されますご本尊はお顔の一部や指が欠落したり、台座がネズミの被害で欠損していたのもきれいに復元されました。

## 鐘樓の屋根工事が完了

戦後間もなく葺き替えた瓦が劣化して瓦の表面が剥落してきましてので葺き替えに着手しました。

いわゆる小屋組から新しい木材に取替え、また四方の軒もこれまでより30センチ余長くなりました。また四本の柱の最下部が長年の風雨によって腐食しているのが判明し、その部分を切り取り新材料を継ぎ足しました。

使用した瓦は昭和の大修復に葺いたのと同じ最高級といわれます美濃瓦です。

工事のため覆われていた素屋根や周囲のシートが取り外れ、重厚

な鐘樓がお目見えいたしました。



見事に修復なった鐘樓  
これまでと比べて  
重厚な屋根となりました

また、併せて境内の整備工事も行われ通用口の溝ブタ設置、境内の排水工事などが次々に進められています。

阿弥陀堂は檜の香りが漂い、外面の白壁が映える荘厳なたたずまいです。樋は酸性雨の損傷を考慮して銅版にステンレスを貼った二重構造の材料を使用しています。

現在は内装工事に切り掛かっています。阿弥陀堂の工事が完了すると、山門の袖門部の修復と本堂外縁板の張替え工事が続きます。

また、山門の扉や破風の金具が二百年余の経過で劣化が激しく、随所が脱落していましたので新しく铸造し焼付塗装いたしました。

# ありがと ございました

ご母堂さまならびにお孫さんの  
十三回忌法要記念として

◎電波掛時計

福山市・藤井洋行

礼拝堂に設置させて頂きました。

十九世住職継職記念として

◎本堂用木製いす

(合成レザー張) 四十脚

浄心寺仏教婦人会

坐り心地がよく、ゆったりと礼拝していただけます。

◎大輪菊花 8鉢

横島 長安圭一殿

◎ドーム菊花 2鉢

入江 住谷大志殿



大輪の菊香が漂い  
心が癒されます

本願寺

# 念仏奉仕団に参加

備中里組 九月一日〜二日

当寺など近隣の本願寺派寺院11寺で構成する備中里組では20余年前から南部北部の二班に分かれて念仏奉仕団としてそれぞれ隔年ごとに本願寺にお参りしています。

今年も九月一日、二日の両日、四ヶ寺、三十一名で実施しました。

## 念仏奉仕団に参加して

津田完治

去る九月一日、二日の両日、近隣四ヶ寺で編成された「本願寺念仏奉仕団」総勢三十一名のお仲間に加えていただき行事に参加させて頂きました。出不精のなまくら門徒の私か意を決してこの行事に参加をさせて頂く気になりましたのはプログラムの中に、希望者には「法名」を頂けるといふ一大イベントが組まれていたからに他なりません。少しは門徒らしくあらねばという殊勝な気持ちで芽生えてきたからでしょうか。こうした時期に案内を頂いたのですから、ちようどタイムングがあつたのです。「おかみそり」と称されるこの儀式は御影堂で御門主様から（今回は前門主様から）おかみそりを

浄心寺からは八名の方が参加されました。この内、津田完治さん（用之江）、北川嗣雄さん（吉浜）が帰敬式を受けられ、法名を授かり門徒としての自覚を新たにされました。



頂く訳であります。御影堂外陣に整列して「その時」を待つ段になりますと今まで覚えのない緊張と、晴れて「法名」を頂けるといふ期待とで経験したことのない心地よい時間が流れて行きました。いつ「その時」がやって来て、いつ終わるのか、今か今かと思つているうちに「その時」は静かに静かに訪れて、そして又、静かに過ぎていきました。今となつては夢の中の出来事だつたとしか形容できません。

一連の行事は本願寺の職員の皆様方のたくみな誘導と浄心寺様のお介添えがあつて事もなく進行していったことは申すまでもありません。宿へ帰つてからの朝食のおいしかつたこと、たくさん「おかわり」を頂戴しました。

報恩寺様には道中始めから終わ

## 備後 総代研修会

備後教区内の各お寺の門徒総代さんの研修会が去る十月三十日に福山市沼隈町の光照寺を会場にして開かれました。光照寺は中四国さらに九州方面に浄土真宗の教線が伸びた起点となつた由緒のあるお寺です。

りまで気配りを頂き心より御礼申し上げます。また四ヶ寺の御住職さま方のかざり気のないお人柄に接することができましたのも嬉しい限りでございました。本願寺の担当職員の愛称「巖（がん）ちゃん」には慣れない私たちをたくさん話術で和ませて、うまくリードして下さい、心からの御礼を申し上げなくてはなりません。他県からの奉仕団のこと、思いがけない激しい雨の中での御門主様との記念写真のこと、拭き掃除のこと、国宝の数々の拝観や抹茶の接待を頂いたこと等、書きたいことは一杯ございますが、ただひと言でいうならば「参加させていたいただいて本当にありがたかつたなあ」ということです。

今後とも皆様方のご指導の程、心よりお願い申し上げます。

## 還浄（げんじょう）

伊藤 英昭

10月7日ご往生 行年72歳

新横島、緑町の地区委員としてご尽力いただきました。永年のご苦勞に深謝申し上げます。

樋口	久男	6	21	浅口市
赤田	庚	7	3	倉敷市
三宅	一司	7	11	向吉浜
藤田	幸子	7	29	入江
堀	晃彦	8	6	旭が丘
高橋	豊子	8	7	樋守
北川	文子	8	13	西大島
小川	明治	8	21	矢掛町
為保	秀子	8	31	殿川
加藤	敏子	9	10	東本町
飯田	喜八郎	9	25	浅口市
藤井	當子	9	2	生江浜
砂田	シズエ	9	10	金浦北
佐竹	美佐子	9	19	岡山市
石井	トヨミ	10	11	吉浜
橋野	稔	10	23	浅口市
三宅	義男	10	95	横島

仏教

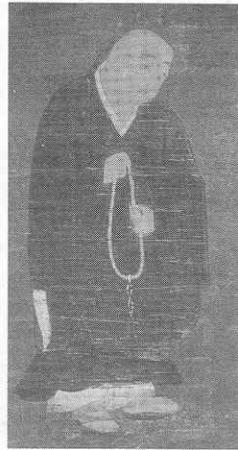


教えと

そのあゆみ

2、仏教のあゆみ

7、法然上人の教え



日本の浄土教に独立の地位を与えたのは、鎌倉時代のはじめに活動された七高僧の第七祖、法然上人です。上人以前の浄土教は、天台・真言などの既成の宗派内で行なわれたものが多く、しかも浄土に生まれるための行も、各人各様で雑然として統一がなく、また念仏をするにしても数多く称えることを重んじるといったふうで、形式的な面を脱することができなかつたのです。しかし法然上人は善導大師の教えを仰ぎ、源信和尚のことばに導かれて、浄土に生まれる道はただ称名念仏の一行であるという確信に立ち、四十三歳の時に専修念仏の一流、すなわち浄土宗を独立されたのです。

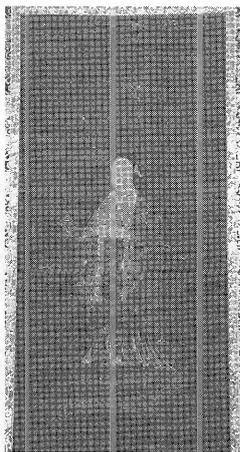
上人の代表的著作は『選択本願念仏集』といいますが、上人のことばに、「浄土宗は愚者

になりて往生するなり」とありますように、浄土に生まれるためにはただ念仏によればいいので、いかなる末世の凡夫悪人も平等に救われることができるのです。従って家も職業もするの必要はなく、老若・男女・貴賤を問わず「一切万人が救われる宗教」なのです。

浄心寺の法宝物

その12

聖徳太子孝養像(軸装)



絹本着色  
タテ 108、0 cm  
ヨコ 49、0 cm

太子は仏教の精神で日本の国を治めようとされました。そこに日本に仏教が根付いた源があります。親鸞聖人は聖徳太子を「和国の

かくて上人は比叡山を出て、京都東山の吉水の庵室で、新しい念仏の教えを説いておられました。上人を慕って集まる者は日に日に増えていきました。それを見て奈良や比叡の僧たちは、ころよく思わず、ついこれをねたんで念仏の禁止を朝廷に訴えました。たまたま不運な事件が起こってそのために念仏は禁止され、上人は四国に流罪とされましたが、その後ゆるされて京都に帰り東山の山谷で亡くなられたのです。

教主」つまり日本のお釈迦さまと讃えておられます。そこで浄土真宗のお寺には太子のお像を奉懸しています。当寺のそれは天和二年(一六八二)に本願寺から下付されたもので一定構図の太子像で、図上に所定の「吾為利生云々」の讃が記されています。その後、明治三十七年(一九〇四)に補修されました。また、本軸は『聖徳太子尊像聚成』石田茂作(元、奈良国立博物館長)著、講談社刊に全国に数ある太子像の一つとして掲載されています。

編集後記

上人が亡くなられた後も、念仏に対する迫害は続きましたが、どんな力をもつても時代の要求に応え、万人に通ずる真実の教えを押しつづすことはできなかった。その流れはますます繁栄したのです。しかし、上人が亡くなられてまもなく、門下に分裂のきざしがおこって、北九州で伝道した聖光上人を中心とする一派は、京都に知恩院、東京に増上寺等の本山を建てて栄えたが、これを浄土宗鎮西派と呼び、また京都の西山のふもと粟生に光明寺を建て、ここを中心として証空上人の流れをくむものを、西山派と呼んでいます。なお時宗をひらいた一遍上人は、この西山派の流れから出られたお方です。

秋色鮮やかな今日この頃、境内の親鸞像に紅葉が、穏やかに散り敷く季節がやって参りました。「お取り越し」宗祖親鸞聖人の報恩講は、十二月五日です。

サマースクール、虫干し法座、秋季彼岸会、アソカコーナー(仏婦)等諸般の報告とお知らせをする浄心寺だより第113号をお届け致します。(編集委員)